

平成29年度研究科横断型教育プログラム（Aタイプ）授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科 開講型)	研究科名	医学研究科	カテゴリー	情報活用・計算科学 科目群	横断 区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	健康情報学 I (Health Informatics I)	講義担当者 所属・職名・ 氏名	医学研究科 教授 中山健夫	開講 場所	医学部 G 棟2F セミナー室 A						
配当 学年	修士 博士後期 専門職	単位 数	2 単位	開講期	後期	曜時限	金2限 (開講日注意)	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション(リスクコミュニケーション含む)、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学や EBM を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。インターネットによる健康情報の評価に関しては、NPO 法人日本インターネット医療協会による eヘルス倫理コード version 2 を利用して実際のウェブサイトの評価・作成の手法を学ぶ。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。											
【研究科横断型教育の概要・目的】											
健康と医療を巡る情報の解釈・活用能力である「ヘルスリテラシー」は、万人に共通する必須の社会的技能である。本講義では様々な健康・医療の課題を取り上げ、「ヘルスリテラシー」、そして「ヘルスコミュニケーション」の理解を深める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ● 疫学・EBM の知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。 ● マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。 ● MBTI の視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
(変更あり)											
第 1 回	10 月 6 日	疫学と EBM からの健康情報リテラシー入門(1)									
第 2 回	10 月 13 日	疫学と EBM からの健康情報リテラシー入門(2)									
第 3 回	10 月 20 日	患者視点の情報: Quality of life と Patient reported outcome									
第 4 回	10 月 27 日	インターネットと e-ヘルス									
第 5 回	11 月 10 日	質の高い医療情報の集約・共有・普及: 根拠に基づく診療ガイドラインを考える									
第 6 回	11 月 17 日	ナラティブ情報の意義と可能性									
第 7 回	11 月 24 日	「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備									
第 8 回	12 月 1 日	疫学情報と因果関係論									
第 9 回	12 月 8 日	ベネフィットとリスクのコミュニケーション									
第 10 回	12 月 15 日	ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション									
第 11 回	12 月 22 日	代替医療とプラセボ: 健康情報とコミュニケーションの視点から									
第 12 回	1 月 5 日	パブリックヘルス・インフォマティクス									
第 13 回	1 月 11 日	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI (エムビーティーアイ :Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13 時 30 分~17 時 30 分									
第 14 回	1 月 12 日	個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI (エムビーティーアイ :Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9 時~12 時、13 時~16 時									
第 15 回	1 月 19 日	総合討論・個別発表「健康情報学 I を履修して」									
【履修要件】											
疫学または根拠に基づく医療 (evidence-base medicine: EBM) の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<ul style="list-style-type: none"> ● 毎回の小レポート提出 80%、発表 20% 											
【教科書】											

講義資料は配布

[参考書等]

- 中山健夫著 健康・医療の情報を読み解く:健康情報学への招待 (丸善書店)
- 中山健夫監修 ヘルスコミュニケーション実践ガイド (日本評論社)
- 中山健夫・杉森裕樹監訳 FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション(丸善書店)

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で指示する。

[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください。